

使用機器：グルコース分析装置
 モットー：質の高い医療を出来るだけ安価に

上林動物病院
 院長 上林譲先生
 看護師 平嶋純子様

急変しやすい動物だからこそ、 その場で検査してすぐに治療することが必要です。

Q1：院内検査を多く実施されている理由は何でしょう？

A1：検査後すぐに治療に取りかかることができます。人間では薬を出して1、2週間様子を見ましようという治療もできますが、動物ではそうはいきません。動物の場合は乳幼児と同じで、容態が急変しやすいので、リアルタイムに治療することが必要です。

Q2：血糖はどのようなときに測定しますか？

A2：採血した場合には必ず測定します。スクリーニングの項目の1つとして血糖値を必ず測ります。

Q3：毎日どれくらいの血糖測定を行いますか？

A3：毎日20検体くらいは確実に測定しています。多いときには1日で30検体測定します。

求められる院内グルコース測定 ～上林先生が考える測定における条件と理由～

項目	条件	理由
血糖測定	採血した際には必ず測定	血糖値が病状に与える影響を判断するため
測定検体	全血	血漿や血清だと採血量が多くなるため
血液量	100 μ L以下	小動物では採血量を多くすると負担になるため
測定時間	1分以内	治療方針を決めるためにすぐに結果を知りたい
生化学装置の結果との相関	相関あり	相関が高くないと診療の参考にできないため

上林動物病院
 院長 上林讓先生
 看護師 平嶋純子様

動物病院における院内検査とグルコース測定の重要性

Q4：グルコース分析装置にはどのようなことが求められますか？

A4：全血かつ微量で測定できることが求められます。また、生化学の装置と相関が取れていることも必要です。

糖尿病など頻繁に採血して測定する場合、当院で使用している生化学の装置では、1回測定するために最低でも0.5ccの血液量が必要となります。しかし、その量は1kg以下の小動物にはかなりの負担となります。

また、診断の参考とする際には生化学の装置とデータの相関が取れていることも重要となります。SMBG（自己血糖測定装置）は全血かつ微量で測定できますが、生化学の装置と比較した際に値が低く、相関が取れませんでした。

Q5：院内検査は、どのように役立っていますか？

A5：糖尿病に関しては、薬の量を検査結果からコントロールするので頻繁に測定でき、かつすぐに結果が分かることは治療に大いに役立ちます。

私のモットーにもあるように、飼い主の方の負担が少しでも軽くなるよう、日々の治療を行っています。検査センターに依頼するよりも院内で検査するほうがコストもかかりません。

また、検査結果が出るのに1時間かかる甲状腺等ホルモン関係の検査を除き、結果をすぐにお知らせできるのも院内検査のメリットです。



動物病院内検査エリアの様子



上林動物病院の皆様